

金沢大学資料館の考古学資料を研究や教育に活用するため、収蔵目録を作成している。今回は、先号にひきつづき西村見暁氏寄贈のコレクションから土器ランプを紹介する。西村コレクションは土器、ガラス器、青銅器から成り、土器には伝ベツレヘム出土のランプ57点が含まれる。先にローマ時代からビザンツ時代6世紀までの土器ランプ29点を取り上げ、12点の実測図を掲載した〔金沢大学資料館だより No.9:8-11, 図 1,2 実測図番号 1-12〕。以下にビザンツ/イスラーム時代の28点を紹介する。

紹介資料のうち、図3,4,5に実測図を掲載するものは、以下の資料館登録番号96JN・・の後に13～31の実測図番号を付した。番号につづき、形の特徴、素地色、化粧土、成形技術、長×幅×高(把手含)cm,注油口径cm,灯芯口径cm,煤跡,底部形状と底径cm,把手,文様,推定年代を記す。

96JN52 (実測図13) 把手が後方に伸びる細長い形のランプ、ピンク黄色素地、赤化粧土、型製、10.9×5.1×5.0,注油口径2.7,灯芯口径1.5,煤跡,輪高台:径4.1×3.5,中が空洞となる厚みのある幅広把手に連珠文と三重円文,注油口沿いに連珠文,連続葉文,肩部に連続楕円文,把手の裏側に四本の細帯文。幅広の把手は、他の形のランプの把手のように上半分を成形する型で作られるのではなく、上部と下部の両方の型で作られる〔Israeli 1988:168〕。そのため上下を接合した後も把手内に空洞が残る。5-7世紀。この資料と同じ器形、似た文様で、把手に人面の浮文のあるランプが、アンティオキアから出土し5-6世紀と年代付けられ〔Kennedy 1963:87〕、またシリアでも作られた〔Israeli 1988:167〕。ユーフラテス岸の出土例は6-7世紀とされる〔Israeli 1988:167〕。

96JN43 (14) 把手が後方に伸びるランプ、ピンク色素地、型製、8.9×5.0×4.3,注油口径1.9,灯芯口径1.6,煤跡,平底:径2.7,空洞の厚い把手に線文,注油口沿いに連珠文,十字文,把手に細帯文,5-7世紀。

96JN44 (15) 把手が後方に伸びる細長い形のランプ、淡ピンク色素地、型製、10.0×5.8×4.2,注油口径2.0,灯芯口径1.5,煤跡,底径3.2,中が空洞で厚みのある幅広把手,注油口沿いに円弧による花文,肩部におそらく葉枝文,把手に格子文,把手裏側に三本の細帯文,底部に花文。5-7世紀。

96JN46 実測図15に似たランプ、淡ピンク色素地、型製、9.0×5.2×3.7,注油口径1.7,灯芯口径1.3,煤跡,底径3.4,中が空洞となる厚みのある幅広把手,注油口沿いに楕円の連続による花文,底部は内湾し放射状線文が刻まれるようである。5-7世紀。

96JN45 (16) 把手が後方に伸びる細長い形のランプ、淡ピンク色素地、型製、10.7×5.2×4.2,注油口径2.0,灯芯口径1.3,煤跡,浅い輪高台:径3.1,中が空洞で

厚みのある幅広把手。把手上面の文様は人面にも見える。底面の線文は刻文のようである。5-7世紀。

96JN42 実測図16に似たランプ、ピンク色素地、型製、9.6×5.2×4.4,注油口径1.9,灯芯口径1.1,煤跡,平底:径2.6×2.2,中が空洞で厚みのある幅広把手,把手上面は丸く膨らみ,実測図16のような人面があった可能性がある。5-7世紀。

96JN47 (17) 把手部分が後方に張り出す細長い形のランプ、ピンク色素地、型製、10.9×5.4×4.2,注油口径1.8,灯芯口径1.2,煤跡,浅い輪高台:径3.5,円錐形状の把手,肩部に連続楕円文あるいは葉枝文,底部に円文,5-7世紀。

96JN41 実測図17に似たランプ、淡ピンク色素地、型製、9.1×5.5×4.5,注油口径2.0,灯芯口径1.0,煤跡,浅い輪高台:径3.3,円錐形状の把手,注油口の円形を方形文が囲む。5-7世紀。

96JN40 (18) 把手が後方に伸びる楕円形ランプ、ピンク黄色素地、型製、8.0×4.7×3.2,注油口径1.4×1.1,灯芯口径0.9,煤跡,丸底,注油口と灯芯口を結ぶ帯文,全体的に不整形,ビザンツ/イスラーム時代。

96JN37 (19) 卵形ランプで上面が丸みを帯びる。淡ピンク色素地、型製、9.1×5.5×3.2,注油口径2.2×2.0,灯芯口径0.9,煤跡,浅い輪高台:径3.2cm,丸底,後方に短く伸びる把手,注油口から灯芯口にかけて複数の細帯文,肩部に葉枝文,7-8世紀。

96JN36 (20) 卵形ランプで上面が丸みを帯びる。ピンク色素地、型製、8.8×5.7×3.2,注油口径2.1,灯芯口径1.4,煤跡,丸底,後方に短く伸びる把手,肩部にジグザク文,7-8世紀。

96JN24 実測図19,20に似るがやや器高の低いランプ、ピンク色素地、型製、(7.9)×5.7×2.7,注油口径2.0,灯芯口径1.0,煤跡,丸底,肩部に放射状線文,小円文による円形花文,7-8世紀。

96JN50 (21) 把手が後方に伸びる卵形ランプ、焼き締まったピンク色素地、型製、10.1×6.1×5.1,注油口径2.8,灯芯口径1.1,煤跡,輪高台径3.0×2.6,先端が動物(鳥?)の頭のように見える上方に長く伸びる把手,把手の先端は指で成形〔Day 1942:74〕,連続斜線文,および蔓巻文状の円文と渦文。この資料の製作地と年代について。同じ種類のランプで銘文をもつものがある。キリスト教(ギリシア語)銘文〔Israeli 1988:156〕や、アラビア語で8世紀の年号、陶工銘、ジェラシュ Jerash(Gerasa)が製作地であることを記した銘文が知られる。ジェラシュはアンマンの北50kmにある遺跡で、型とともにランプが出土した〔Day 1942:74〕。アラビア語銘文にはヘジラ暦125年(西暦741-742年,ウマイア朝),H.129(A.D.746-747ウマイア朝),H.135(A.D.753アッバス朝)の文字が認められる〔Day 1942:74,77-78, Abdel-Jail'Amr 1986:148〕。

これらの銘文を施されたランプは注油口から灯芯口にかけてのランプ上面に帯状に凹んだ部分をもつタイプで、96JN50のように上面に渦文の施されたタイプのほうがおそらく年代は古い [Day 1942:77]。96JN50は7-8世紀のウマイヤ朝期のジェラシュ製であろう。

96JN39 (22) 卵形小型ランプであり、注油口と灯芯口を洋梨形の稜線(凸線)が囲む。ピンク黄色素地、型製、6.6 × 5.2 × 3.5、注油口径 1.4、灯芯口径 1.0、煤跡、輪高台径 2.9、四角錐形小把手、肩部に葉枝文、7-8世紀。実測図 22, 23 に形や文様が似た資料で、注油口と灯芯口の間平坦部に十字文をもつものもあり、ユーフラテス域や北東シリアで多く出土するという [Israeli 1988:170]。シリアのウマイヤ宮殿 Jabal Usayr からも同じ器形の資料が出土する [Chateaux Omayyades de Syrie pp.16-17]。

96JN38 実測図 22 に似たやや不整形な小型ランプ、ピンク黄色素地、型製、7.4 × 5.1 × 4.1、注油口径 1.7、灯芯口径 0.9、煤跡、輪高台径 2.4、円錐形小把手、肩部に連続斜線文、7-8世紀。

96JN51 (23) 細長い卵形ランプで、注油口と灯芯口を洋梨形の稜線(凸線)が囲む。焼き締まった赤色素地、型製、10.6 × 6.6 × (4.2)、注油口径 2.4、灯芯口径 1.3、煤跡、輪高台径 3.8、高台内部に動物の浮文、先端部欠損の円錐形把手、肩部に連続短線文、7-8世紀。

96JN48 実測図 23 に似るがやや小型のランプ、焼き締まったピンク色素地、型製、8.5 × 5.1 × (3.8)、注油口径 1.9、灯芯口径 0.9、煤跡、輪高台径 3.2、円錐形把手が欠損、肩部に連続短線文、注油口と灯芯口の間十字文、7-8世紀。

96JN49 (24) 先の尖った卵形ランプで、注油口と灯芯口を稜線(凸線)が囲む。淡ピンク色素地、型製、9.4 × 6.2 × (3.6)、注油口径 2.2、灯芯口径 1.5、煤跡、輪高台径 3.0、高台内部に十字文、先端部の欠損した円錐形小把手、肩部に連続斜線文、上面平坦部に斜線文または葉文、7-8世紀。これと似た資料が初期イスラームの宮殿 Khirbat el-Mefjer の 747 年の地震による破壊の層から出土する [Israeli 1988:154]。地震後の部屋で出土し、蔓草を伴う植物文が施される Khirbat el-Mefjer type と呼ばれるランプ [ibid.] は、当コレクションには含まれない。

96JN53 (25) 卵形ランプで、注油口と灯芯口を稜線(凸線)が囲む。赤色素地、型製、10.4 × 6.3 × 4.8、注油口径 2.5、灯芯口径 1.5、煤跡、卵形の高台 L=7.7、内側にやや湾曲する把手に三本の細帯文、肩部にジグザグ文、注油口と灯芯口の間細帯文、8世紀。内湾する把手や卵形の高台は、上述の Khirbat el-Mefjer type にも見られる特徴である。

96JN13 (26) 丸みを帯びた卵形ランプで、注油口を囲み灯芯口につながると思われる稜線(凸線)がある。重い灰色素地、型製、(9.0) × 7.1 × 3.3、注油口径 2.7、

灯芯口部欠損、輪高台径 3.7、小突起把手、肩部に蔓卷文と曲線文、7-8世紀。

96JN54 (27) 卵形の大型ランプ、ピンク色素地、型製、12.0 × 8.9 × 4.4、注油口径 1.8、灯芯口径 1.5、煤跡、卵形の低い高台 L=5.5、内側にやや湾曲する把手が欠損、文様無? 損傷? イスラーム前期、8世紀以降。

96JN58 実測図 27 のようなランプの下半分が残る。ピンク色素地、型製、11.5 × 8.0 × (2.8)、煤跡、卵形の高台 L=8.0、イスラーム前期、8世紀以降。

96JN56 (28) 注油口の高い円形ランプ、ピンク色素地、型製、10.7 × 8.7 × 5.0、注油口径 2.7 × 2.3、灯芯口径 1.2 × 0.9、煤跡、浅い輪高台:径 4.0、環状帯把手(貼付)、ビザンツ/イスラーム前期。

96JN55 実測図 28 に似るがやや小型のランプで、外周部は欠損。ピンク黄色素地、型製、8.0 × (4.4) × 5.0、注油口径 2.5、灯芯口径 0.9、煤跡、平底:径 3.4、環状帯把手(貼付)、ビザンツ/イスラーム前期。

96JN9 (29) 注油口の高い円形ランプ、赤色素地、ろくろ製、(9.0) × 7.9 × (4.6)、注油口径 2.2、灯芯口径 1.1、煤跡、環状帯把手(貼付)が欠損、文様無、ビザンツ/イスラーム前期。ろくろ製ランプはローマ時代に消滅したが5世紀に再び現れ、イスラーム時代にも作られた [Sussman 1987:12, Israeli 1988:177]。

96JN1 (30) 注油口の高い円形ランプ、赤色素地、ろくろ製、8.2 × 6.4 × (3.9)、注油口径 2.0 × 1.5、灯芯口径 1.3、煤跡、環状帯把手(貼付)が欠損、5-8世紀。

96JN2 (31) 注油口の高い円形ランプ、赤色素地、ろくろ製、(7.6) × 5.9 × (3.8)、注油口径 1.7、灯芯口径約 1.1、環状帯形把手(貼付)が欠損、文様無、5-8世紀。

96JN10 半球形ランプ、ピンク色素地、型製、8.8 × 7.3 × 4.4、注油口径 3.0、灯芯口径 0.6、煤跡、文様無、年代不明。

参考文献

- Abdel-Jalil Amr 1986 Two early Abbasid inscribed pottery lamps from Geras. *Zeitschrift des Deutschen Palastina-Vereins* pp.146-149
Day, F.E. 1942 Early Islamic and Christian Lamps. *Berytus* 7:65-79
Israeli, Yael & Avida, Uri 1988 Oil-Lamps from Eretz Israel: The Louis and Carmen Warschaw Collection at the Israel Museum, Jerusalem.
Institut du Monde Arabe 1990 Chateaux Omayyades de Syrie.
Kennedy, Ch.A. 1963 The Development of the Lamp in Palestine. *Berytus* 14:67-115
Sussman, V. 1982 Ornamented Jewish Oil-Lamps: from the destructions of the second temple through the Bar-Kokhba Revolt (Jerusalem)

〔 1. 文学部 考古学
2. 資料館 〕

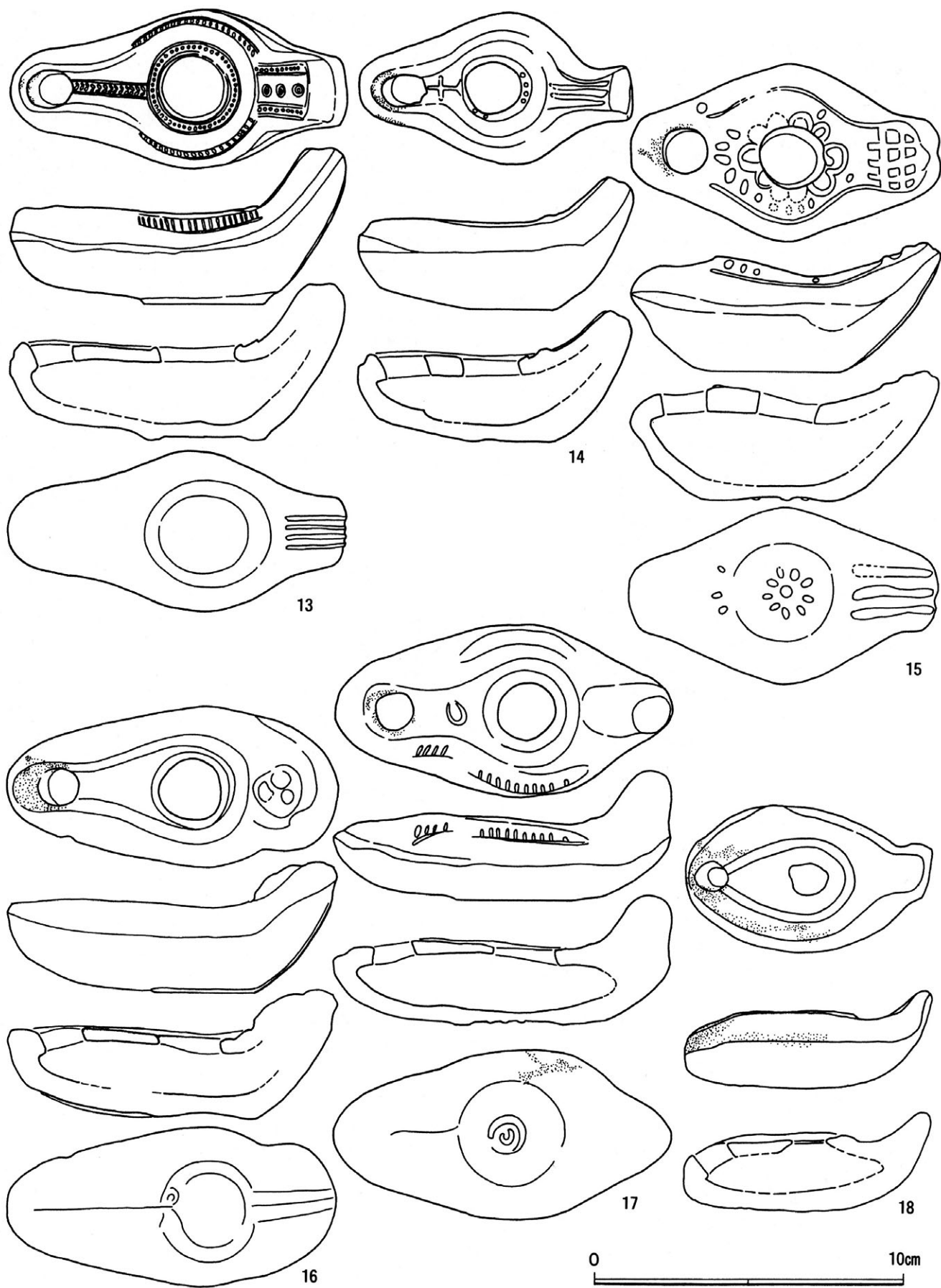


図3 伝ベツレヘム出土ランプ

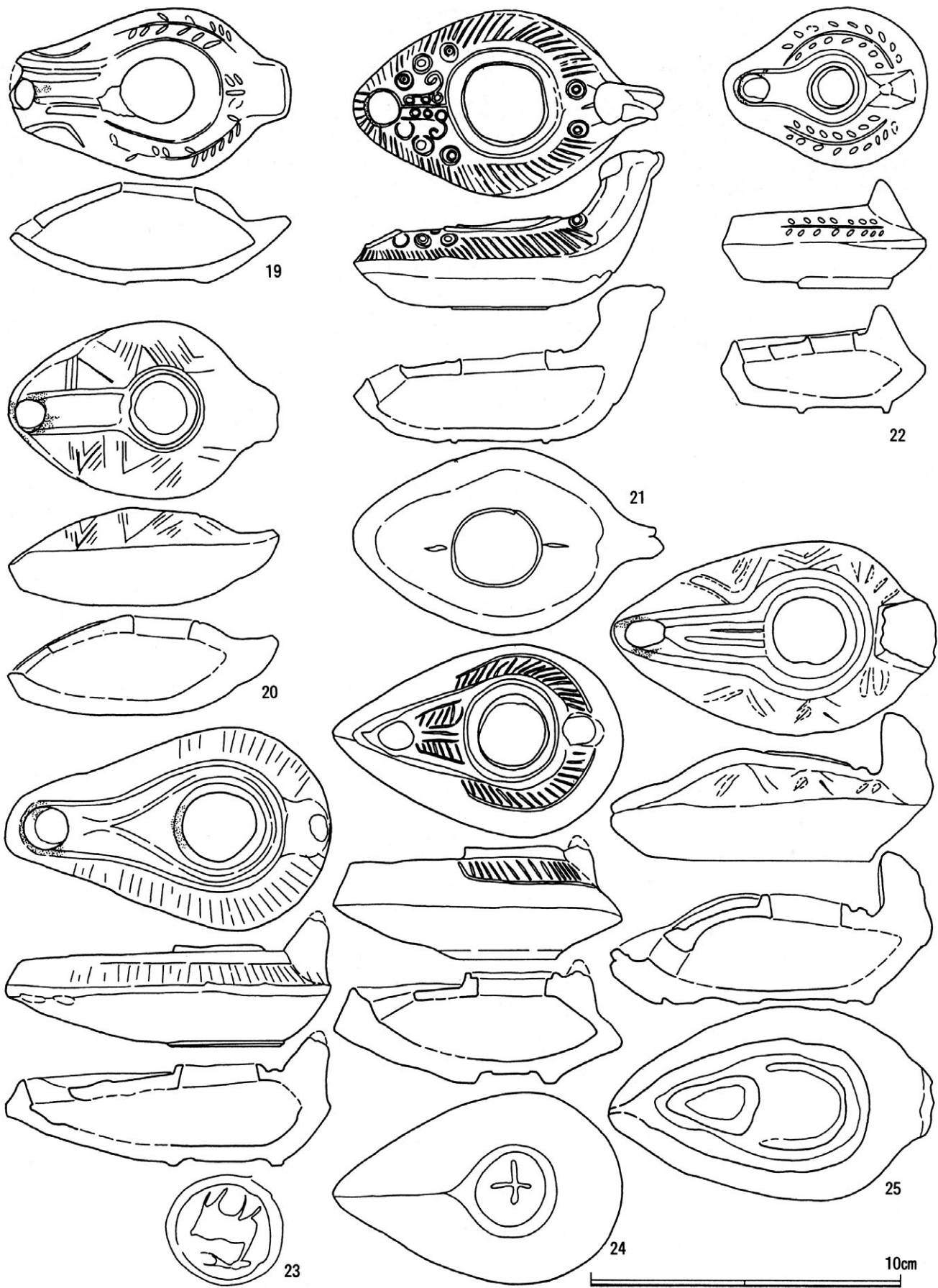


図4 伝ベツレヘム出土ランプ

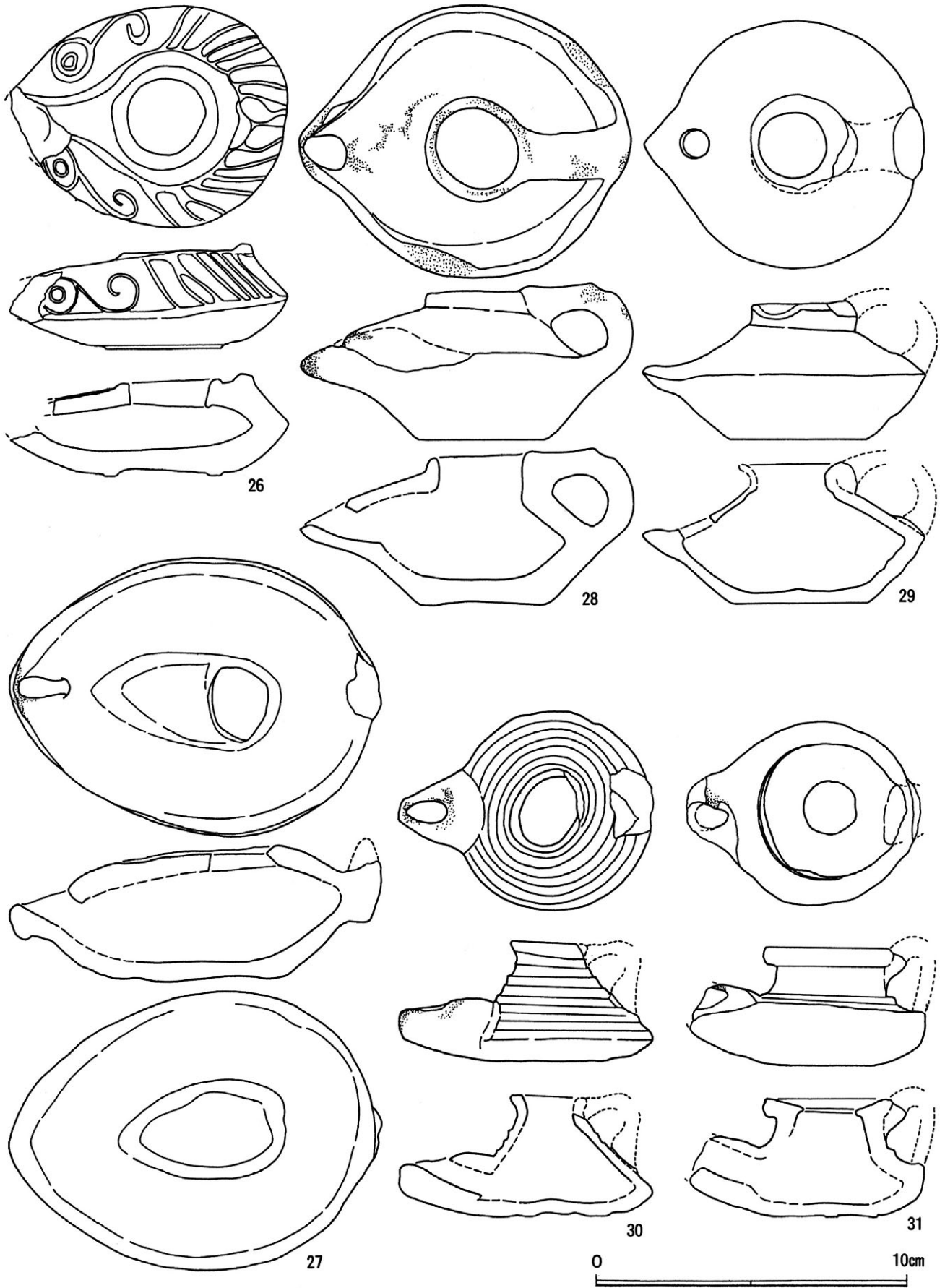


図5 伝ベツレヘム出土ランプ